

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	大分県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	竹田市立竹田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	1	8	18
生徒数	61	79	81	(1年2名)	221	

II 研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、自ら考える生徒の育成を図る指導の工夫改善
～基礎・基本を確実に定着させるための学習活動を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 1 少人数授業…生徒の理解の状況に差が出やすい教科，学年(人数)であるため。
 - ① 2年生・数学3コース制
 - ② 1年生・数学2コース制
 - ③ 1・2年生・英語2コース制
- 2 フロンティアタイム…10分の帯の時間で毎日実施，1教科1週間続ける。
 - ① 1・2年生…全教科実施
 - ② 3年…国語以外の4教科実施（国語は朝自習で毎日 “新聞の読み取り” を実施）
- 3 小・中連携
 - ① 岡本小学校と国語科で実施
 - ② 竹田小学校と算数・数学科で実施
 - ③ 校区6校と実施…国語科，算数・数学科に絞らず，互いの授業を見合い意見交換を行なう。（互いに要求すべきところはしていく。）
- 4 評価の工夫…全教科で実施
- 5 生徒の実態把握…標準学力検査を全学年で実施（昨年同様の時期に実施）
 - ・昨年からの伸びを診る。
 - ・できるだけ同時期に実施することにより，昨年度の同学年とのデータの比較も可能。
 - ・1年は国語・数学の2教科
 - ・2年は国語・数学・英語の3教科
 - ・3年は国・社・数・理・英の5教科
- 6 進路保証の充実…全学年で実施
 - ・学力的に厳しい生徒（検証軸生徒）の実態把握（学級・各教科ごとに実践）
 - ・T・Tなど，どういう指導・支援が考えられるか
 - ・双城中で2001年度より研究を続けてきた
- 7 朝自習の工夫…毎朝8時～8時20分（1・2年は読書，3年は新聞“天声人語”を読む）
 - ・天声人語を読もう～読解力を付けるために毎朝読む
 - 内容 ①読む ②印象に残った部分に波線を引く ③主題に赤線を引く
 - ④タイトルをつける ⑤難読漢字を読む ⑥難解語句を辞書で調べる
 - ⑦意見・感想・反論を110字程度にまとめる

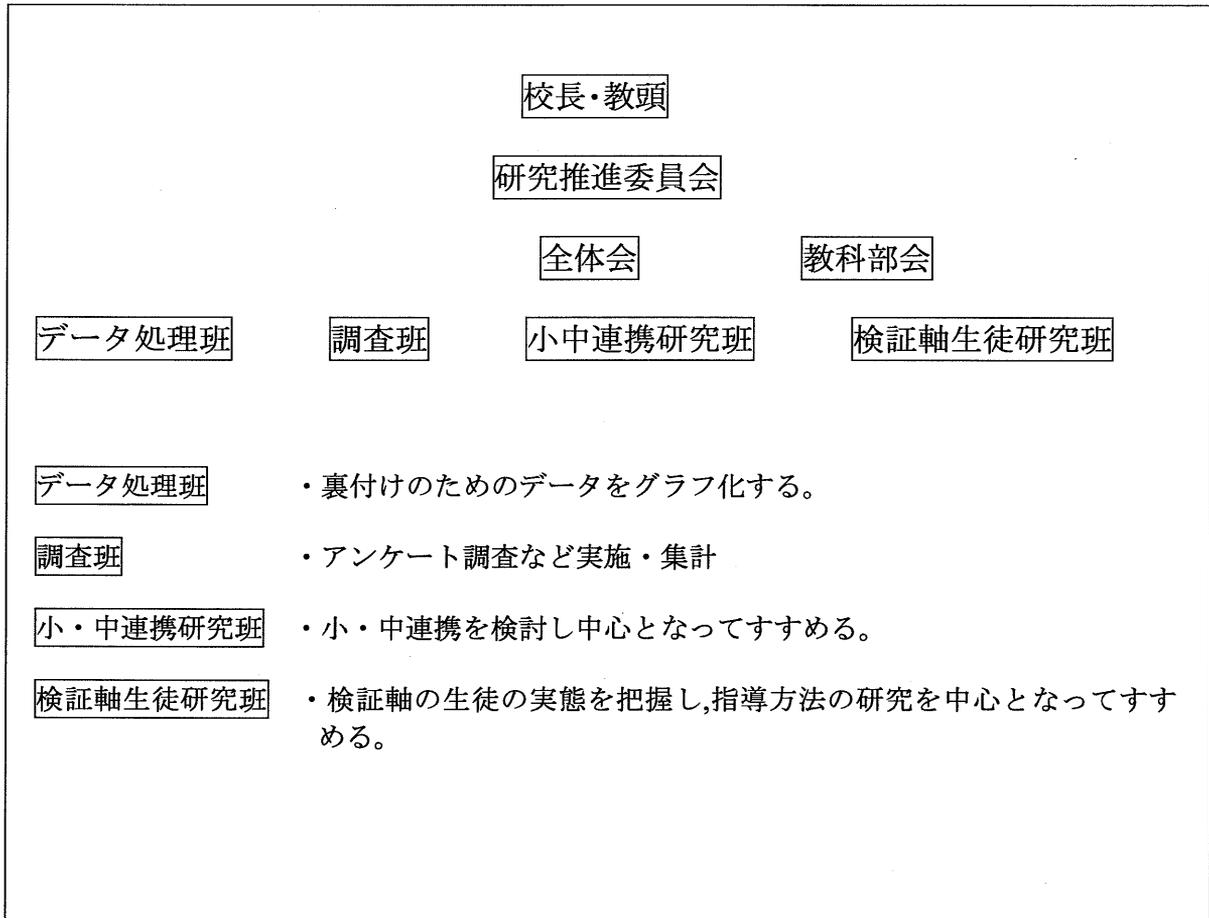
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none">○ テーマ 自ら学び、自ら考える生徒の育成を図る指導の工夫改善 ～基礎・基本を確実に定着させるための学習活動を通して～○ 研究の見通し（研究仮説） 基礎・基本を定着させるため独自の指導方法を試みたり、また、少人数制やコース別クラスなどの個に応じたきめ細かな指導体制を取り入れ、評価を工夫したりすることによって、子ども達は主体的に学習に取り組むようになり、自ら学び、自ら考えることができるようになるであろう。○ 研究の内容・方法<ul style="list-style-type: none">・ 上記「(1) 実施学年・教科」に記入した1～5の項目を実施。・ 生徒の実態及び現状の学力把握・ 英語・数学・国語の標準テスト→分析(どんな力をつけなければならぬか)・ 指導方法・指導体制の工夫改善
----------------	---

平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none">○ テーマ 自ら学び、自ら考える生徒の育成を図る指導の工夫改善 ～基礎・基本を確実に定着させるための学習活動を通して～○ 研究の見通し（研究仮説） 基礎・基本を定着させるため独自の指導方法を試みたり、また、少人数制やコース別クラスなどの個に応じたきめ細かな指導体制を取り入れ、評価を工夫したりすることによって、子ども達は主体的に学習に取り組むようになり、自ら学び、自ら考えることができるようになるであろう。○ 研究の内容・方法<ul style="list-style-type: none">・ 上記「(1) 実施学年・教科」に記入した7項目を実施。 (14年度より、6・7項目を追加し実施した。)1. 少人数・コース制(英語・数学)<ul style="list-style-type: none">・ 1, 2年で実施(2コース制) ・ 2年で3コース制実施2. フロントアタイム(5教科)<ul style="list-style-type: none">・ 基礎・基本定着のため、毎日昼休み終了後10分間実施・ 5教科のローテ(ただし、理・社は交互に、また3年は国語以外の4教科で実施)3. 小学校との連携による(国語・数学)<ul style="list-style-type: none">・ 校区内の小学校6校と実施希望4. 評価の工夫<ul style="list-style-type: none">・ (全教科による) 評価規準・観点別評価の作成5. 生徒の実態把握<ul style="list-style-type: none">・ アンケート・意見交換・学力診断テスト6. 進路保証の充実<ul style="list-style-type: none">・ 学力的に厳しい生徒(検証軸生徒)の実態把握・教科ごとに実践・ T・Tなどどういう指導・支援が考えられるか7. 朝自習の活用<ul style="list-style-type: none">・ 毎朝8時～8時20分 1・2年は読書・ 3年は新聞ノート(読解力を付けるために天声人語を読む) <ul style="list-style-type: none">◆いかに基礎基本が定着し、学力が高まったか。(評価と分析)◆標準テスト(客観的評価)◆何が作用し、生徒の基礎基本が定着したのか。 (指導方法の工夫改善か、指導体制の工夫改善か、小学校との連携か)◆独自プリントの積み重ねなど→分析(データ処理)と考察
----------------	--

平成 16 年度	<p>○ テーマ 自ら学び、自ら考える生徒の育成を図る指導の工夫改善 ～基礎・基本を確実に定着させるための学習活動を通して～</p> <p>○ 研究の見通し ・ 昨年までの研究を継続し、深めていく。 ・ 研究仮説は変更予定有り。</p> <p>○ 研究の内容・方法 ・ 上記「(1) 実施学年・教科」に記入した7項目を引き続き実施。 ・ 昨年までの研究を継続し、深めていく。 ・ 特に検証軸生徒研究班における自尊感情アンケートと学習成績の相関図から読み取れることをもとに、さらに研究を深めたい。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1. 少人数授業の取り組みについて

基礎1を希望した子どもたちがやる気をなくしたりしないだろうかと、気がかりであったが、教卓の前の席に真っ先に座り待っていた子どももいた。「わかりたい」という気持ちが子どもたちにはある。理解の差によってコース別に学習すること（習熟度）を敬遠しがちであったが、果たして子どもたちは、一人ひとりの「わかりたい」という思いを成就するために必要だと捉えているのではないだろうか。子どもたちの中には「そうだったのか」と改めて理解できた生徒もいて、一斉授業で指導できない点を補えることができつつあった。

2. フロントアタイムの取り組みについて

毎日繰り返すやることが定着の早道だと考える。成果は徐々にではあるが上がってきている。(資料①) 試行錯誤しながらの取り組みであるため、最も効果的な方法には至っていないが、今後、実践を重ねながら、よりよい方法を探っていくつもりである。

3. 小中連携について

岡本小学校とは国語科で進めていくことにし、昨年度、2学期末に本校1年生の提案授業を小学校の先生に見ていただき、その後、5年生の授業を本校国語科が見せてもらった。感想や意見を出し合うことで、互いの指導に役立てていきたいと考える。また、竹田小学校とは算数・数学科で進めていくことを確認し、昨年度3学期に本校1年生の授業を小学校の先生方4名に見ていただいた。その後、6年生の授業を本校から数学科を含め4名が参観してきた。交換した意見を今後の指導に生かしていくことを確認した。

双城中では、校区の2小学校と交流を進めていたため、引き続き実践が行いやすかった。今年度は、統合のため校区の小学校が6校と増えた。昨年度の反省より学力向上フロントア指定の2校だけではなく、6校すべての小学校と実施していくことを要望し、交流の場を設定するに至った。

また、小中連携研究班の数学科では、基礎・基本の定着に拘わり、学力診断テストの分析から次の2つの課題を設定した。

・ 計算力の向上及び、計算の速さ ・ 問題文の読み取りの向上にむけて
授業やフロントアタイムの中で、これらの課題を克服していくための取り組みを試みている。(資料②)

また、国語科では、読み取りの力の不足＝語彙力の不足が課題として挙げられる。そのため、授業では頻繁に辞書を活用したり、練習してきた漢字をフロントアタイムで確認したりして、力を付けていっている。

4. 評価の工夫

昨年度より研究を重ねてきた評価規準について、教科ごとに本校独自の形式で作成し、授業に取り入れている。なお、観点別評価項目については、1時間にたくさんあっても評価しきれないと考え、現段階では、極重要な項目のみ記入している。今後実際に使用していきながら、よりよいものに作り替えていきたい。

統合のためかなりの時間をかけて一人ひとりの様子（生活態度や学力等）を確認した。また、アンケートなどにより、生徒の意欲面も把握し、指導の工夫の手だてを試みた。(資料③)

5. 生徒の実態把握について

さらに、学力の客観的データを得ることで、的確な指導が得られると考え、昨年度同様学力診断テストを実施した。学力診断テストは、昨年と同様のものを同時期（1学期末）に行った。同時期に実施することにより、昨年からの伸びを診ることも、昨年度の同学年とのデータの比較も可能となった。教科ごとに学年ごとの特徴、落ち込んでいる項目、昨年度からの変容等が具体的に明らかにしていき、今後の指導の方向を全職員で確認した。

6. 進路保障の充実について

2001年度より双城中で進めてきた研究の1つである。学力的に厳しい生徒の学力を向上させるために、まず、子どもたちの実態を把握した。特に、学力的に厳しい立場の子を検証軸生徒として、それぞれの教科の中で子どもたちの実態を出し合った。その中で、どのような指導・支援が考えられるかを検証していった。

（資料④-1）

また、全校生徒に自尊感情（セルフエスティーム）のアンケートをとり、検証していく中で、学力と自尊感情には相関関係があるとわかった。（資料④-2）

7. 朝自習の取り組みについて

「読み取る力が不足している。」これは、普段の授業や生活の中でも懸念されていたことであるが、観点別学力診断テストの客観的データでも明らかになったことである。入学時より毎朝20分間読書に取り組んでいるにもかかわらず、読解力不足であるという原因は、語彙力に乏しいこと・好きな本ばかりの読書傾向等が考えられる。

そこで、3年生は朝読書の時間を使って、「語彙を増やすこと・少々難しいと思われる文章でも読み慣れること～読み取りの力を付けるために～」を目標とした取り組み「天声人語を読もう」を4月よりスタートさせた。始めた頃は時間内に終わることが難しかったが、ほとんどの生徒が、時間内にできるようになってきている。読解の速さも正確さも、この取り組みを続けることで着実に力がついてきている。特に、語彙を増やすために取り入れている辞書の活用については、苦手意識がなくなっている。毎日続けることで、少しずつではあるが変容が見られるようになった。（資料⑤）

2. 今後の課題

1. 少人数授業の取り組みについて

3コース制については、保護者の捉え方がどうであるか思いをしっかりと聞いておくべきである。

2. フロンティアタイムの取り組みについて

事後指導が徹底できていない。つまづいている子ども、基礎で止まっている子どもの指導時間および指導方法をどうすればよいか。家庭学習の充実とともに、今後の課題である。

3. 小中連携について

小学校と互いの授業を見合い、意見を交換することでそれぞれのよさが見えてきた。そのことをどのように互いの授業に取り入れていくかはこれからの課題である。教科内容も、連続しているのだという意識を持って、何が足りないのか、何を身に着けるべきか、互いに確かめていかなくてはならない。

4. 評価の工夫

現段階では、観点別評価を多くは取り込んでいないが、今後、授業と評価を繰り返していく中で、精選、加筆していくべきである。

5. 生徒の実態把握について

今後も客観的なデータをとり、指導につなげていきたい。

6. 進路保障の充実について

今後、自尊感情の変化を捉えたり、自尊感情の低い生徒のセルフエスティームと学力を向上させるべく指導方法の工夫を試みていきたい。

7. 朝自習の取り組みについて

目標に応じた朝読書のさらなる活用も、今後考えていくべきである。

フロンティアタイムに関する実態

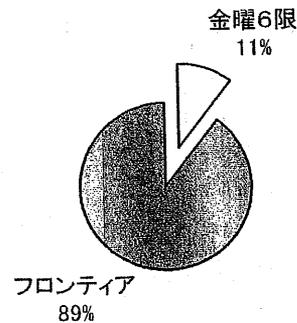
1. フロンティアタイムに対する意識（フロンティアタイムのアンケートより）

- ① 【金曜6限の50分】を【毎日10分×5日】にわけて、フロンティアタイムを行っています。どちらがよいですか？

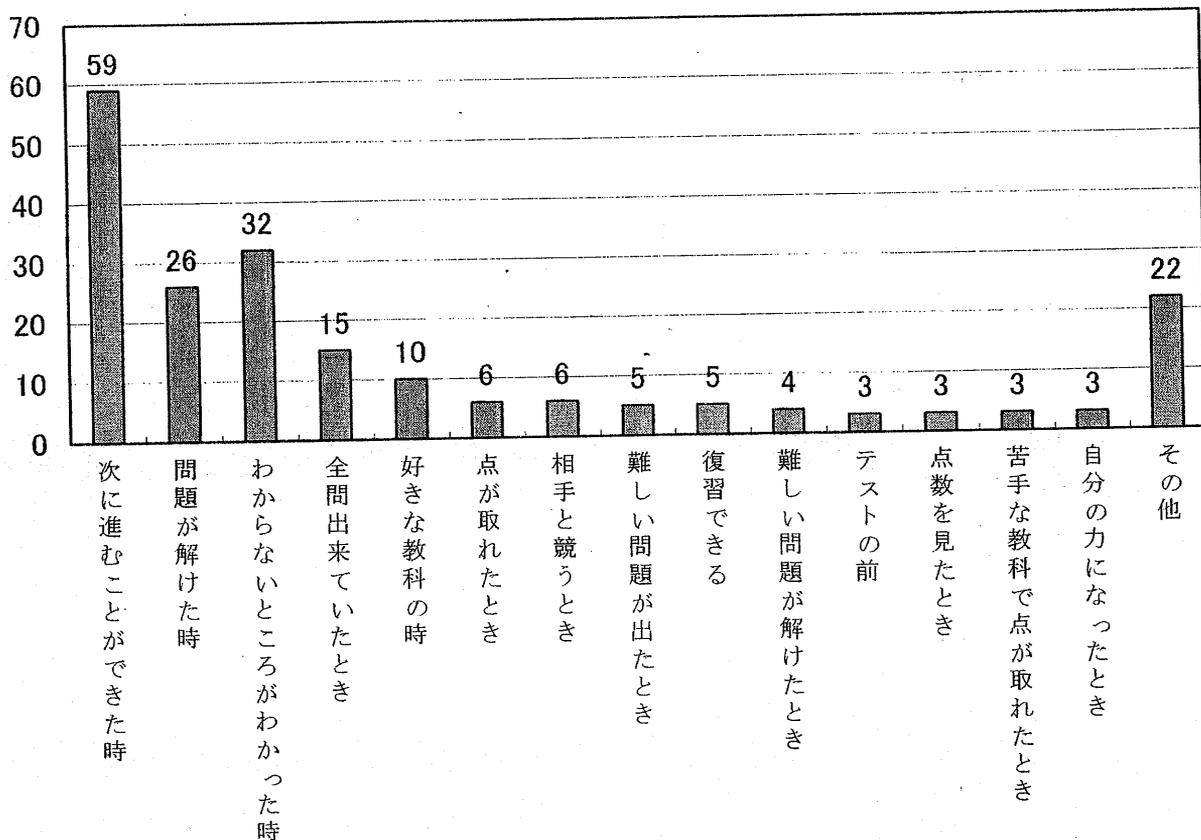
【フロンティアタイムを選んだ主な理由】

- ・ 10分間で集中できる(44)
- ・ 少しずつがよい〔頭に入る〕(22)
- ・ 復習できる(19)
- ・ やりやすい(15)
- ・ 力がつく(9)
- ・ 苦手な所が解る(6)
- ・ (コツコツと)毎日出来るから(6)
- ・ わからないところが何度もできる(3)
- ・ わかるようになったところがあるから(2)
- ・ その日にない教科もできる(1)

金曜6限？フロンティアタイム？



- ② フロンティアタイムで楽しい（やりがいのある）時はどんな時ですか？



③ フロンティアタイムで『力がついた』と思うことは？

年	教科	内 容	※ () の中は人数
1年	国語	22	・漢字(21)
	社会	5	・歴史(2) ・地理(3)
	数学	33	・計算(21) ・文字式(6) ・式の値(2) ・全部(1)
	理科	26	・植物(18) ・作図(1) ・光, 音, 力(2) ・説明(1) ・全部(1)
	英語	30	・単語(18) ・英文(8) ・選択(1) ・全部(1)
2年	国語	54	・漢字(43)
	社会	26	・歴史(8) ・年表(6) ・地理(1)
	数学	28	・計算(10) ・説明(5) ・1次関数(4)
	理科	12	・電気(7)
	英語	23	・英文(6) ・答え方(5) ・1年の復習(5) ・単語(4)
3年	社会	30	・歴史(12) ・地理(11)
	数学	37	・確率(23) ・平方根(7) ・計算(4) ・関数(3) ・2次方程式(1) ・文章題(1)
	理科	39	・植物(10) ・光(8) ・作図(4) ・力(3) ・生物(1) ・物理(1)
	英語	31	・単語(7) ・発音(3) ・長文(3) ・文法(3) ・入試問題(2) ・英作文(2)

④ フロンティアタイムについての意見

- ・ 解答, 解説を詳しくして欲しい(11)
- ・ 点数を統一して欲しい(3)
- ・ 社, 理を別々にして欲しい(3)
- ・ その時学習している内容を出してほしい(1)
- ・ (時間が余るので)次の問題の予習ができるプリントにして欲しい(1)
- ・ 時間が余らないようにして欲しい(1)

《考察》

昨年度より始めたフロンティアタイムも子どもたちに定着し, 意識調査では, 「10分間という短時間で集中できる」「少しずつできるのがよい」などの意見が多く見られた。「次に進みたいので復習をする」「積み重ねができる」などの意見もあり, 子どもたちはフロンティアタイムに意欲的に取り組んでいると思われる。また, 『フロンティアタイムでやりがいのある時は?』という質問に対して, 「わからないところがわかったとき」「解けなかった問題が解けたとき」「次に進むことができた時」など達成感が感じられた時にやりがいがあると感じている。

フロンティアタイムについての意見の中で, 「解答, 解説を詳しくして欲しい」「やり直しが十分できない」という意見もあり, 今後フロンティアタイムを続けていく上で, 問題の作成方法や事後の扱いなど見直していく必要がある。

2. フロントアタイムの軌跡

【教師のデータの記録】

1年【数学・第1回】

	5/27	5/28	5/29	5/30	備考
1	A 20	B 18	C 16	C 19	D
2	A 9	A 19	B 6	B 6	B
3	A 20	B 20	C 11	C 16	C
4	A 3	A 3	A 15	A 17	B
5	A 20	B 20	C 13	C 18	D
6	A 20	B 20	C 15	C 13	C
7	A 20	B 19	C 13	C 11	C
8	A 20	B 20	C 10	C 12	C
9	A 19	B 17	C 7	C 5	C
10	A 19	B 17	C 17	D 11	D
11	A 20	B 19	C 13	C 13	C
12	A 19	B 20	C 18	D 18	E
13	A 20	B 19	C 14	C 19	D
14	A 18	B 7	B 7	B 10	B
15	A 20	B 20	C 17	D 16	D
A	15	2	1	1	0
B		13	2	2	3
C			12	9	6
D				3	5
E					1

プリントの種類
点数

到達の様子
到達段階を表す。
実際にクリアしたプリントは、
これよりひとつ前のプリントになる。

2年【国語・第3回】

	9/18	9/19	9/22	9/24	9/25	備考
2	A 13	A 19	B	B 20	C 16	C
4	A 12	A 13	A 17	B 18	C 19	D
6	A 5	A 9	A 10	A 10	A 14	A
8	A 19	B 20	C 19	D 20	E 20	F
10	A 18	B 20	C 20	D 19	E 20	F
12	A 18	B 20	C 20	D 20	E 20	F
14	A 18	B 20	C 20	D 19	E 19	F
16	A 17	B 17	C 16	D 19	E 18	F
18	A 14	A 18	B 17	C 17	D	D
20	A 18	B 20	C 20	D 20	E 20	F
22	A 17	B 20	C 16	D 19	E 20	F
24	A 20	B 20	C 20	D 20	E 19	F
26	A 18	B 20	C 19	D 19	E 20	F
28	A 7	A 10	A 14	A 19	B 20	C
30	A 13	A 20	A 17	B 19	C	D
32	A 20	B 20	C 19	D 20	E 19	F
34	A 18	B 20	B 20	C 20	D 20	E
36	A 5	A 5	A 6	A 19	B 20	C
38	A 15	B 19	C 19	D 18	E 20	F
40	A 19	B 20	C 17	D 19	E 20	F
A	20	7	5	3	1	1
B		13	3	3	2	0
C			12	2	3	3
D				12	2	3
E					12	1
F						12

3年【英語・第3回】

	9/18	9/19	9/22	9/24	9/25	備考	
21	A 10	B 7	C 5	C 10	D 11	E 6	F
22	A 6	A 10	B 2	B 11	C 9		D
23	A 11	B 11	C 7	C 10	D 6	D 8	D
24	A 8	B 10	C 5	C 5	D 8	D 5	D
25	A 11	B 9	C 7	C 10	D 9	E 6	F
26	A 9	B 10	C 7	C 11	D 10		E
27	A 10	B 10	C 6	C 10	D 9	E 4	E
21	A 10	B 10	C 9	D 11	E 6		F
22	A 10	B 8	C 6	C 11	D 8	D 11	E 7
23	A 9	B 8	C 4	C 11	D 8	D 11	E 2
24	A 8	B 8	C 3	C 9	D 9		E
25	A 10	B 8	C 5	C 10	D 7	D 11	E 5
26	A 10	B 11	C 9	D 9	E 5		E
27	A 11	B 8	C 5	C 10	D 10	E 6	F
21	A 9	B 9	C 6	C 11	D 7	D 10	E 5
22	A 10	A 10	B 7	C 5	C 10	D 5	D 7
23	A 8	B 7	C 3	C 4	D 6		C
24	A 10	B 11	C 10	D 10	E 6		F
25	A 7	B 8	C 2	C 7	D 11	D 5	D
26	A 8	B 10	C 4	C 9	D 9	E 4	E
27	A 8	B 10	C 11	D 9	E 6		F
A	21	2	0	0	0	0	0
B		19	1	0	0	0	0
C			20	17	4	1	1
D				4	13	5	5
E					4	8	8
F						7	7

【生徒の記録】

がんばった軌跡を残していこう(2学期・前半)

期間	教科	3年 級 番号前()					備考	
		1	2	3	4	5		
1	9/1~ 9/5	理科 (10)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
			8	10	10	10	10	
2	9/8~ 9/12	数学 (8)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
			12	0	なし	6	2	
3	9/18~ 9/26	英語 (7)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
			5	10	6	11	4	9
4	9/29~ 10/3	社会 (12)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
			12	17	なし	11	なし	
5	10/6~ 10/10	理科 (7)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
			19	15	19	6	なし	9
6	10/14~ 10/17	数学 ()	()	()	()	()	()	
			18	19				
7	10/20~ 10/24	英語 ()	()	()	()	()	()	

フロントアタイムの取り組みを振り返って(頑張ったこと・反省点)

指導
者印

数学における基礎・基本の定着にむけて

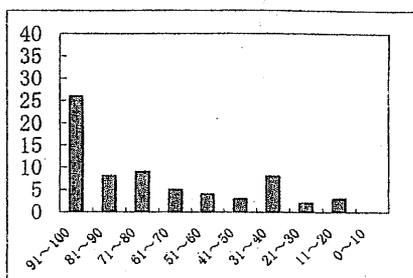
小中連携班の数学科では、基礎基本の定着にかかわり、学力診断テストの分析から、次の2つの課題を設定した。

(1) 計算力の向上及び、計算の速さ (2) 問題文の読み取り力の向上

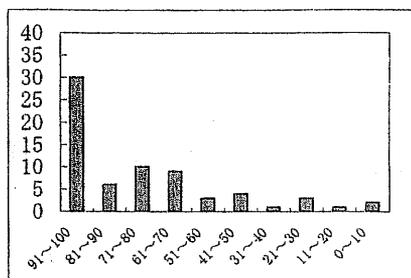
(1) 計算力の向上及び、計算の速さについて

- ① 計算の速さについては、フロンティアタイムで問題量を工夫してみた。10分間で、計算問題10問では、かなりの生徒が余裕を持って解答できる。しかし、20問では最後まで解答することができない生徒がかなりいた。しかし、2回目、3回目となるごとに、スピードも上がることがわかった。生徒は、問題に慣れることと、繰り返しをすることで、速さが身につくことがわかった。
- ② 計算力が、数学の基礎基本を定着させる上で、重要になる。計算を速く正確に解く力は、その後の取り組みを向上させることにつながると考えた。それぞれの学年では、1学期を中心に計算の学習がある。その定着を図るために、2学期に10日おきに計算力テストを実施した。30分25問の100点満点で、数値のみをかえた形式でおこなった。下のグラフは、2年生での3回の結果である。結果は、目に見えて向上していることがわかる。生徒は、自信をつけ、かなりの成果が上がった。

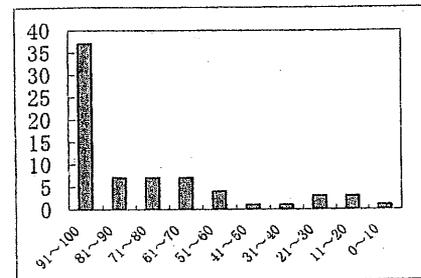
第1回



第2回



第3回



(2) 問題文の読み取り力の向上について

- ① 文章を読んだり、文章で解答したりすることは、かなり定着が難しい。特に、1年生で「文章を立式すること」は、かなり難題とみられる。言葉を分析し、それを式化と結びつかなないと考えられる。頭の中にイメージを作る工夫が必要である。
- ② 下の問題文は、1年生の「方程式利用」の1例である。立式ができない生徒が半数近くいる。

長さ80cmのテープがあります。このテープを3本に切り分けて、大は中より15cm長く、中は小より10cm長くしたい。小を x cmとして、それぞれのテープの長さを求めなさい。

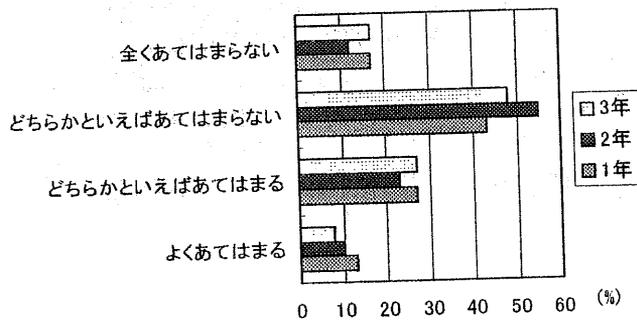
- ③ 「方程式の利用」では、続けて時間、距離、速さの関係の問題へ続いていく。生徒はかなり苦手とする。下は、その例である。

A町からB町へ行くのに、時速4kmで歩くと、時速12kmの自転車で行くより2時間多くかかるそうです。A、B間の道のりを求めなさい。

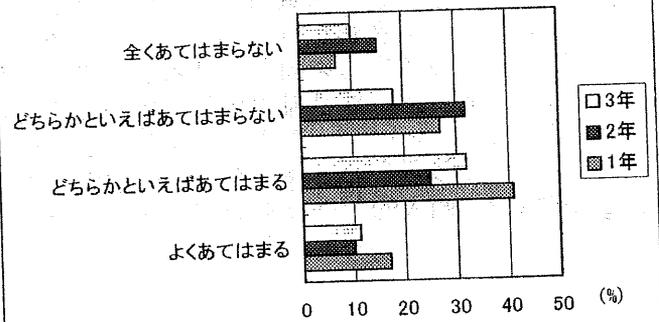
- ④ 丁寧に解説することと同時に、慣れさせる学習をこころがけている。短い文章で、繰り返し学習する取り組みを続けている。

生徒の学習に対する意識・関心

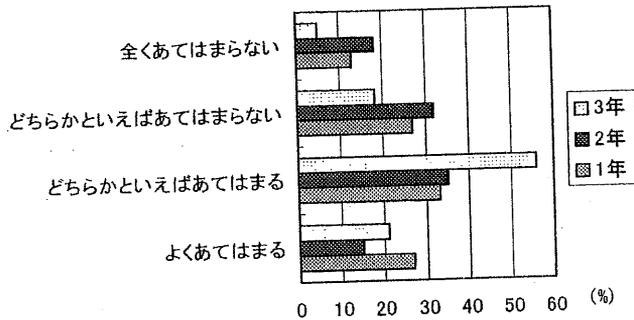
1. わからないことは、進んで質問している



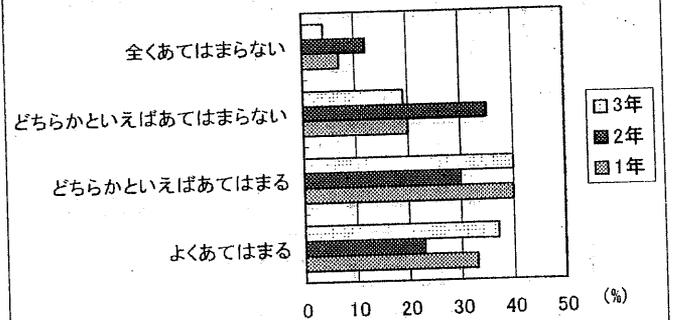
2. 難しい問題でも進んで挑戦している



3. テストでできなかった問題をあとで確かめている



4. 興味や関心のあることは、進んで調べている



【考察】

- わからないことを進んで質問するのは全体の4割。それに対して6割がわからないことを解決できずに何らかの悩みを持って、学習をすすめているのが現状である。
- 難しい問題にも進んで挑戦するのは全体の4割を占める。なかでも1年生は意欲的に取り組んでいる。それに対し、全体の6割が難しい問題を敬遠する傾向がみられる。基礎基本を定着させるためのフロンティアタイムの継続は大切である。
- テストの後に誤答ノート（やり直し）に取り組むことが定着しているので、ノートづくりを通してテストでできなかった問題を確かめることができる。また、フロンティアタイムの取り組みでは、プリントでできなかった問題について友だちや先生に聞き、どこが間違っていたのか何につまずいていたのか確認をしている。次のステップへすすみたいと意欲をみせている。
- 興味や関心のあることは、進んで調べる積極的な姿勢をみせている。

自尊感情を高める取り組み

学力的に厳しい生徒の学力を向上させるために、まず子どもたちの実態を調査した。それぞれの学年や教科の中で、子どもたちの実態を出し合い、特に厳しい立場の生徒と生活面でも気になる生徒を含めて『検証軸生徒』として、どのような指導・支援が考えられるのかを検証していった。

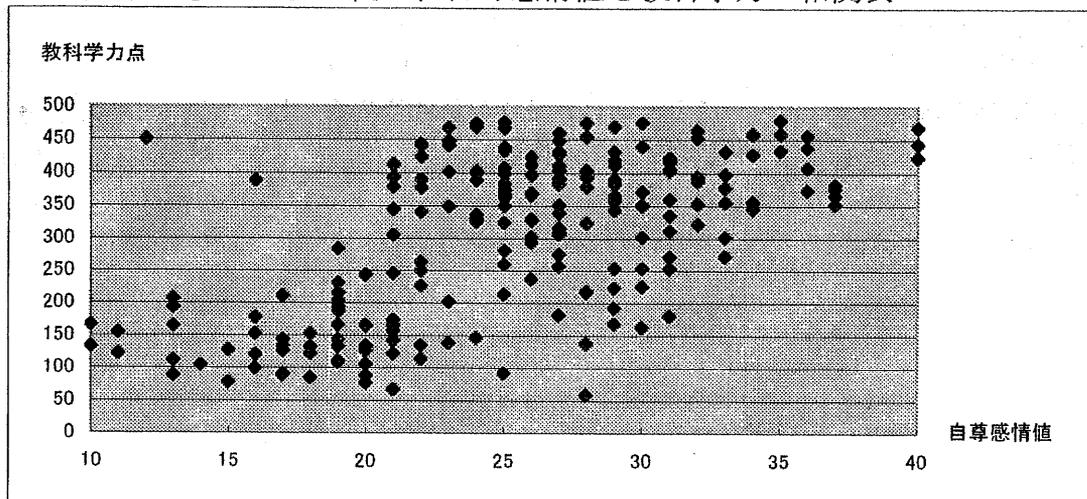
また、学力と自尊感情（セルフエスティーム）の相関関係を調べるために、自尊感情のアンケート調査を行なった。その結果、自尊感情値と教科学力の間には相関関係が認められ、教科学力を向上させることが、自尊感情を高めることにつながることを確認された。そこで、検証軸の生徒を中心にすえた授業をいかに展開し、支援を必要とする生徒に対してどのような支援のあり方が可能か考え、実践していくことが必要になる。

一方、教科学力は高いが自尊感情が極端に低い生徒がいることもわかった。家庭的な問題や、個人的な悩みを抱えていたり、さまざまな要因が考えられる。これらの生徒についても、心のケアをしていかなければならない。

【資料1】 検証軸生徒の自尊感情値と、1学期末テスト結果 (7月調査)

年	1年次	2年次	3年次	1学期末5教科	検証軸生徒の持つ課題
1	14			204	学力
1	15			127	学力、生活面
1	19			109	学力、生活面
1	20			106	学力
1	24			147	学力
1	24			326	生活面
1	25			214	学力
1	26			424	生活面
1	31			422	生活面
1	34			295	学力
1	36			250	生活面
2		16		121	学力・生活面
2		18		85	学力
2		18		123	学力・生活面
2		20		194	生活面
2		21		134	学力
2		22		114	学力・生活面
2		23		139	学力
2		28		138	学力
2		31		271	学力・生活面
3			13	126	学力
3			17	63	学力・生活面
3			20	63	学力
3			21	79	学力・生活面
3			25	46	学力
3			28	29	学力

【資料2】 全校生徒の、自尊感情値と教科学力の相関表

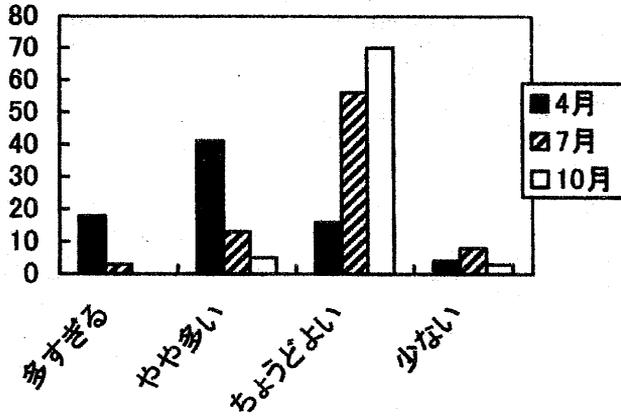


読解力をつけるために

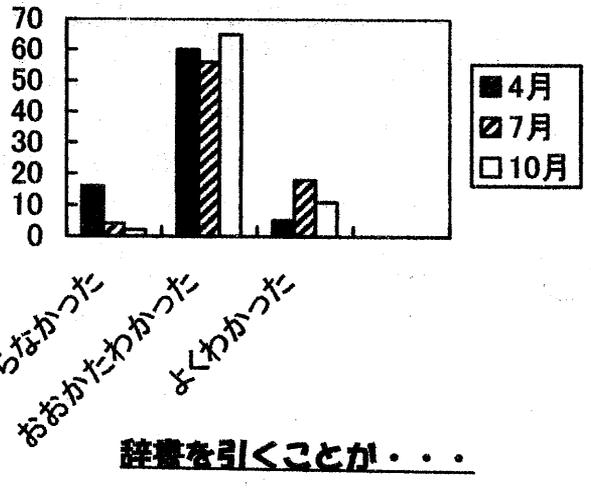
読解力不足であるという原因は、語彙力に乏しいこと・好きな本ばかりの読書傾向等が考えられる。そこで、読解力向上をめざし、3年生は朝読書の時間を使って、【語彙を増やすこと・少々難しいと思われる文章でも読み慣れること】を目標とした取り組み、「天声人語を読もう」を4月より行っている。

始めた頃は時間内に終わることが難しかったが、ほとんどの生徒が、時間内にできるようになってきている。読解の速さも正確さも、この取り組みを続けることで着実に力がついてきている。特に、語彙を増やすために取り入れている辞書の活用については、苦手意識がなくなっている。

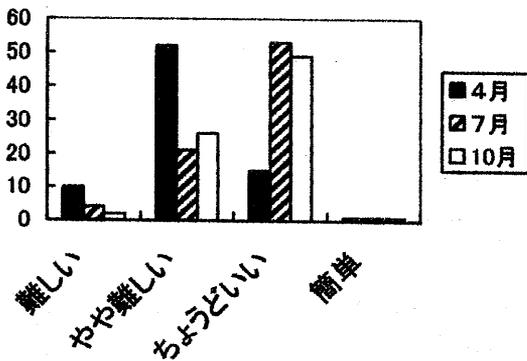
20分でやるには内容が・・・



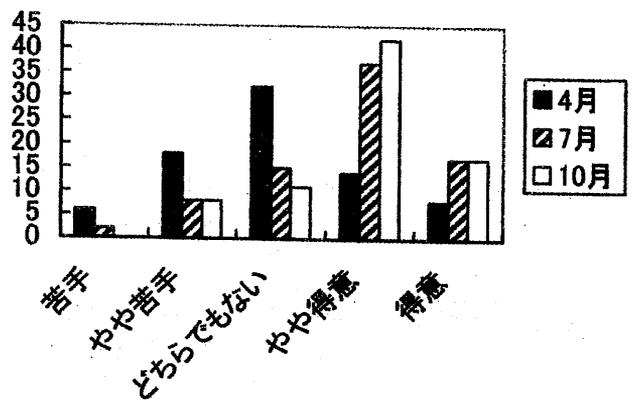
内容の読み取りが・・・



書かれている内容が・・・



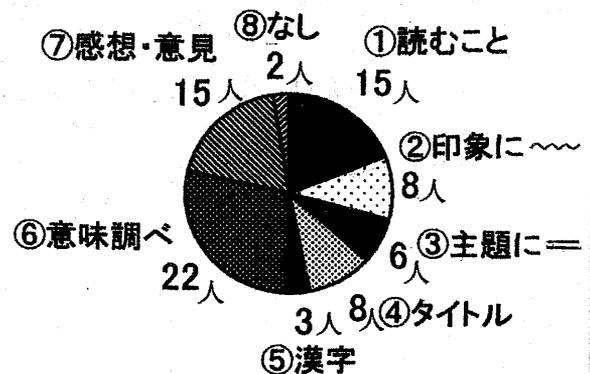
辞書を引くことが・・・



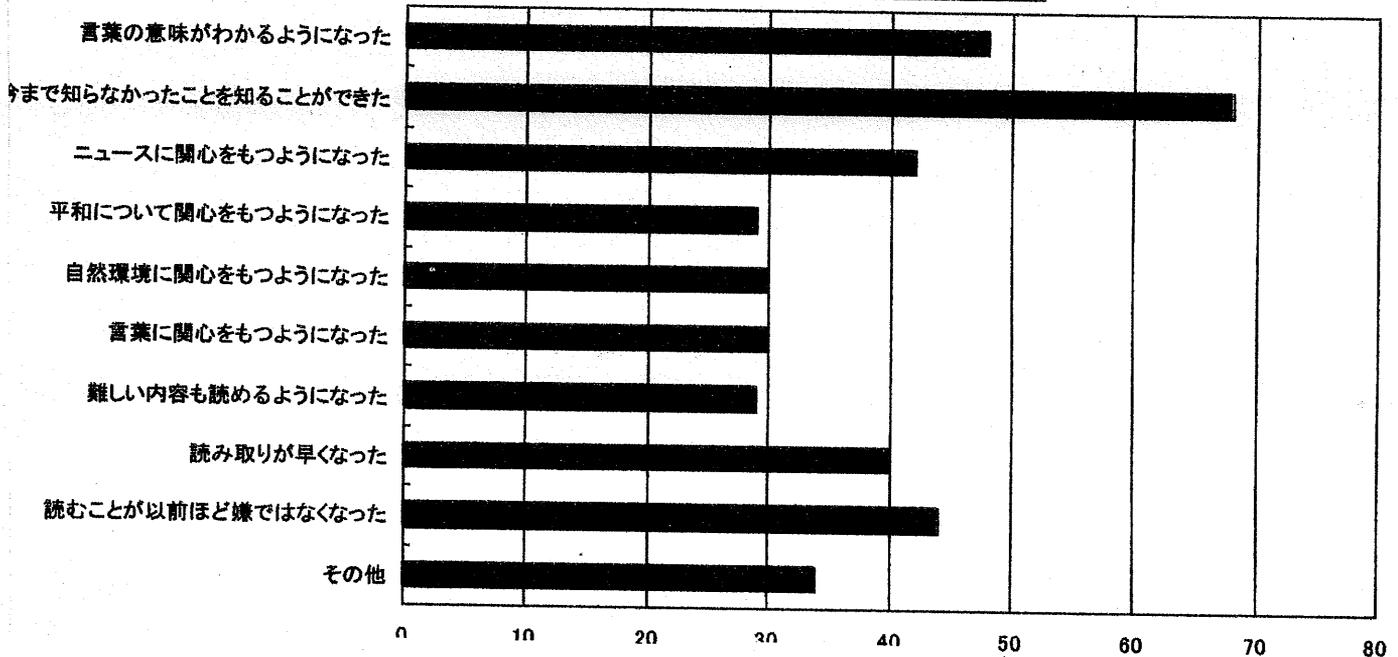
「天声人語を読もう」の7つの学習活動のうち、1番得意なこと

- ①読むこと(15人)・・・知らなかったことを知ることができた・読んでいくと楽しい・興味ある内容だから・早く読めるようになった・どんなことを書いているか楽しみ・新しい情報を知ることができる
- ②印象に残ったところに〰線を引く(8人)・・・印象に残るところが多い・見つけるのが楽しい
- ③主題に＝線を引く(6人)・・・筆者の言いたいことがわかるようになった・主題を考えるのが楽しい
- ④タイトルを付ける(8人)・・・楽しい・好きなように題名をつけることができる
- ⑤難読漢字を読む(3人)・・・漢字が得意だから
- ⑥難解語句を調べる(22人)・・・本当は違う意味だったことがわかる・辞書をひいてその意味を書き写すだけで頭に新しい知識が入るのでやっていて楽しい・だんだん早く引けるようになった・わからなかった語句がわかるので嬉しい・意味がわかるっておもしろい
- ⑦感想や意見を書く(15人)・・・自分の思ったことが書ける・自分の思いを素直に書ける

得意なこと



「天声人語を読もう」毎朝続けてみて、変わったと思うことは…(10月)



自分の読み取りの力について思うこと(10月)

◎ 「天声人語を読もう」での、感想や意見、反論を書くところでは、ニュースのこと、平和・人権・自然破壊など、さまざまな事柄について自分の考えを持つことができました。また、テストなど、問題を解くとき、何を聞かれているのか、何が主題なのかを読み取ることができ、以前よりもはやく理解することができています。難解語句を調べるときも、言葉の意味だけでなく、漢字や対義語を覚えることができたしました。作文や感想などを書くときもこれらを活用し、言葉に関心ができていい文を書くことができています。 (1組・女子)

◎ たくさんの内容の記事を読むことによって、社会の動きやその他のいろいろなことを知ることができるので、いいなあと思う。「天声人語を読もう」が始まって、自分は以前よりも新聞を読むようになった。それまではテレビとスポーツの記事以外は読まなかったけれど、今ではすべての記事に目を通すようになった。そして書くことも速くなったような気がする。あの短い時間でも、びっしりと感想を書くことができるし、(マスが) あれだけでは、まだ足りないと思うことがたまにある。でも、それもまた「天声人語を…」のいいところであると自分は考える。あの少ししかないマスに、どうやって自分の思いや考えを伝わりやすく要約できるかということが隠れていると思う。「天声人語を…」は密かにそんな弱い部分を補ってくれていると思うと、とてもうれしい。これからもいろいろな記事を読んで知識を身につけたいと思った。 (1組・男子)

◎ 読み取りはあまり好きではありません。でも、「天声人語を読もう」をしていくうちに、何度も繰り返して読んで、理解することができるようになったと思います。それに「読むのが速くなったんじゃないかなあ」と思います。これから国語でつけたいなあと思う力は、天声人語で知った言葉の意味や漢字を普段から使っていくことです。 (2組・女子)

◎ 僕は天声人語を読み始めてから、文章を読むのが楽しくなりました。前はマンガしか読んでなかったけど、今では家にある小説を読むようになりました。前はよくわからなかったけど、今では内容もわかるようになりました。テストの読み取り問題も、意味を理解しながら読むことができるようになりました。タイトルをつけるというところは、まだ表現力が豊かでないためか難しいけど、その他は得意になりました。それと辞書を引くのも前より速くなったと思います。漢字も読めて書けるようになりました。前は「朝から国語の授業があるみたいで嫌だな。」と思っていたけど、今はそうでもなくなりました。読み取りの力という点では、天声人語を読み始める前よりずっと力がついたと思います。しかし、たまに難しい内容があると少し戸惑うこともあるので、それがなくなるように、これからはがんばっていきたいです。また、表現力、読み取った内容を具体的に表す力が不足気味なので、感想や反論でそれを補っていきたいです。 (2組・男子)

◎ 天声人語をやって、少しは読み取る力がついた気がする。少なくとも少しは長文問題にも慣れてきたと思う。今まではテストで長文問題が出てほとんど内容が把握できず、かなり間違ったりしていた。けれど、今はおおかたの内容が読み取れるようになったし、少しは問題が解けるようになったと思う。 (3組・男子)

◎ 読み取りの力は、前よりもついてきたと思う。本を読むときでも以前より速くなった気がする。それに読むことが少しずつだけ楽しく感じるようになった。天声人語は私にとってとても大きな存在になっている。主題がどこに書かれているか、筆者がその一つのことについてどう思っているかという読み取りの力をつけてくれた。それに今まで知らなかったことを知ることができたし、難読漢字がだいたい読めるようにもなったからだ。読むことも書くことも、少しずつ力がついてきているという実感がある。 (3組・女子)